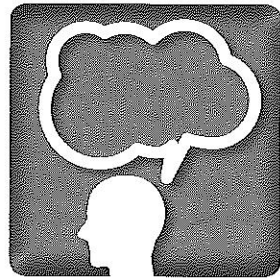


経営(継承)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑦

こころやたいこう
心稍怠荒

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

やる気を失いかけたときは……

「事稍拏逆せば、便ち我に如かざるの人を思え、則ち怨尤自ずから消えん。」

心稍怠荒せば、便ち我より勝れる人を思え、則ち精神自ずから奮わん」

『業根譚』の一節にある。

思いどおりにならないときは、自分より条件の悪い人のことを考えてみるのだ。すると不満が消えてしまうものである。

また、やる気を失いかけたときは、自分より勝れた人のことを考えてみるとよい。

すると、またやる気が奮い立つてくるものである。

というのが大意である。介護報酬改定を「事稍拏逆」と感じて、「心稍怠荒」と凹んだトップやリーダーは少なくない。

報酬ありきで仕事をしているわけではないものの、改定が4回目ともなれば、改定率の増減幅や他の介護サービスとの比較をしたくなるのが人情の自然である。

そうした比べ方に終始したところで解決の糸口は見えないからこそ、比べる視点や対象を変えるこ

とで活路を開くことである。

だが、わが事業所(の職員)よりも勝れた事業所(の職員)をいくつか挙げることでできたとして、その勝れた点を評価して模範にしなければならぬと、やる気を奮い立たせるようなトップやリーダーは決して多くはない。

人生あいうえお

自分の力量をわきまえることなく、仲間うちで威張ること。知識も力もないのに尊大に振る舞うことを「夜郎自大」という。

「夜郎」は、漢の時代中国の西南部にあつた小国の名前。「自大」は、自分を大きく見せる尊大な態度のこと。漢の使者がこの小国に立ち寄つた際、漢の強大さを知らなかつた夜郎国の王が「漢と我といずれが大なるか」と尋ねたことから、「世間知らず自信過剰」な王が「夜郎自らを大なり」と自国の力を自慢した故事が「史記」あることに由来している。

類義語の「遼東之豕」は、世間知らず(独りよがり)の慢心で、他の考えを聞こうとしないこと。

遼東とは、中国遼寧省南部地方。豕は、豚のこと。

その豚はみな黒なので、頭の白い豚が生まれたことを珍しがって河東まで持つて行ったところ、その豚はみな白かったことから、とても恥ずかしい思いをして帰ってきたという『後漢書』朱浮伝の故事に由来した諺である。ここから転じて、自分だけが特別に偉い者だと勘違いをしていい気になつている人のたとえとして用いられる。

どちらも「唯我独尊(世の中で自分だけが偉い)と思いがること」であり、「井蛙之見(見識の狭の意を持つ井の中の蛙)」である。

昨年末、訪問先の介護事業所で目に飛び込んだのが「人生あいうえお」だ。

あ 明日死んでも悔やまない今日を過ごす。

い 生きる(活かされる)目的を絞ると人生の迷いが少なくなる。う 運はめぐる、つかむチャンスは一瞬。

え 「偉い」と自分でうぬぼれる人は、中身の薄い人である。

お 同じ24時間でも、過ごし方で何倍にも価値が出る。

自分より勝れた人のことを考える材料になれたらうれしい。